

平成 25 年 9 月 10 日

名古屋大学

名古屋大学共同教育研究施設 1 号館の解体に伴う 土壌汚染調査結果と汚染拡散防止対策について

名古屋大学東山キャンパスでは、共同教育研究施設 1 号館の解体工事を、平成 25 年 6 月から実施しておりました。

このたび、解体工事にあたり、名古屋市条例に基づき、解体建物建設地の土壌汚染調査を実施した結果、一部の箇所から土壌汚染等処理基準を超えるふっ素及びその化合物が検出されましたので、その調査結果等と汚染拡散防止対策についてお知らせいたします。

1. 土壌汚染調査について(経緯)

名古屋大学東山キャンパスは、昭和 17 年に工学部及び理学部を当該敷地に移転し、現在に至っています。このたび、建物解体工事に伴い、名古屋市条例における調査義務が生じたことから、工事の着手にあたり解体建物建設地で土壌調査を行いました。

2. 土壌汚染調査結果について

土壌の状況調査の結果、2 箇所から基準を超えるふっ素及びその化合物が検出されました。また、基準を超過した全ての地点において実施した深度調査の結果、深さ最大 1.46m まで基準を超過しており、濃度は最大で 1.3mg/L(基準：0.8mg/L 以下)でした。
汚染箇所は、別添図面のとおりです。

3. 地下水の調査分析結果について

土壌調査範囲の地下水について、ふっ素及びその化合物を対象に水質調査を実施したところ、土壌汚染等処理基準（地下水基準）に適合していました。

4. 今後の対応

今回の土壌汚染にいたる原因は不明ではありますが、今後、土壌汚染の拡散防止対策を講じながら汚染土壌の撤去をする予定としております。

また、化学物質管理システム（MaCS-NU）等による試薬等の厳正な管理を徹底し、試薬等による土壌の汚染防止に努めます。

基準超過の概要

基準超過物質	基準超過濃度範囲	基準超過深度	土壌汚染等処理基準	基準超数/調査数
ふっ素及びその化合物 (土壌溶出量)	0.92mg/L ~1.3mg/L	地表面 ~1.46m	0.8mg/L 以下	3/38

※調査数は、深さ方向の調査など同一地点で複数の調査を実施している場合を含みます。

※土壌含有量調査及び地下水調査では土壌汚染等処理基準に適合していました。

名古屋大学東山キャンパス配置図

